

小田の浜の防潮堤は、市が原形復旧を支持したことで、堤防高が海拔11・8メートルから4・3メートルに変更される可能性が一気に高まった。住民は津波のリスクを受け入れることで、島の大切な資源を守ることを決断した。

ただ、意見交換会に出席しなかった住民のなかには「県の計画は高すぎるが、安が残ってしまう。景観を損なわない範囲は景観や経済性

計画変更の可能性大

県「レベル1こだわらず」

のままでは、どちらの選択でも不満や不安が残ってしまう。国は景観や経済性

を求め意見も。これは、原形復旧かレベル1堤防かの二者択一ではなく、安全と景観を両立する中間案も模索してほしい。住民は全面コンクリート張りの巨大防潮堤に嫌悪感を抱いており、表面の緑化も工夫した上で、住民の選択肢を広げることが期待したい。

(今川悟)